

謹賀新年

寅

本年もよろしくお願いたします。

地区の皆様は、今年開館20周年を迎えます。

新年、明けましておめでとございます。



中央地区 松本市大手公民館
松本市中央地区福祉ひろば



有志で門松づくり☆



多世代交流もちつき大会もやりました



取材も沢山しました

公民館活動推進功労者

松本市では、永年公民館の活動推進のために功労のあった者に対し、感謝状を贈呈しています。

この度、中央地区から2名の方が功労者に決定されましたのでご紹介いたします。

●青木 光代 様
(文化委員 8年)

●犬飼 富雄 様
(文化委員 9年8カ月)

()内は在職委員会と期間

お二人には多年にわたり、公民館活動の推進に尽力していただきました。今後も地区の皆様には公民館活動を盛り上げていただきますようお願い申し上げます。

素晴らしさを知っています。一緒に生活したことがあり、イヌイットの自然を崇拝する「人類よりはるかな歴史を持つているウイルスは当然厳しい地球環境を生き抜いてきました。我々が戦える相手ではありません。森の生き物同様免疫を作り共存していかねばならない」と。

ニコルさんはイヌイットと、小男の柔道家がイギリスの大男を投げ飛ばしたのを見て、日本に興味を持ち国籍をイギリスからカナダへそして日本に移しました。コロナの新型オミクロンはまだまだ油断大敵です。皆に免疫が出来て共存出来る日がくることを祈っています。(S・A)

長元坊 ちゆうげんぼう

毎週金曜日の信濃毎日新聞に故C・Wニコルさんの連載があります。世界で自然破壊が進み、温暖化のため大きな竜巻や未曾有の災害がおきているのを思うと、ニコルさんが自然を愛し私財を投じてまで森やそこに暮らす生き物までする活動をしていたことはとても大事な事だと思います。

また、20代に北極越冬隊に選ばれ何回か同行しています。護身のためやむなく親子2頭の白熊を仕留め解体したことがあったそうです。イヌイットの教えで白熊の肝臓は人間には毒だと聞いていましたからソリの犬も食べないよう氷の割れ目に捨てました。学者の先生たちは一番美味しいところなのにと文句を言うのですが、隊長からの報告を受けた北アメリカ北極協会から食べていたら全員死んでいたとの報告を受け取り納得したそうです。

町会紹介 土井尻町

土井尻町は松本城三の丸の西南部に位置し、城郭の外を巡る土塁(土居とも呼ばれる)があったことからその名が付いたと言われています。昭和初期の地図には南中小路と記されています。昭和22年、25年頃までは南・北土井尻町だけで、現在の土井尻町はありませんでした。昭和30年当時は子どもの数も多く(1年生から6年生まで40~50人ほど)、児童会の活動も盛んでした。毎週土曜日の朝は子どもたちによる町内の道路清掃が行われ、竹ぼうきにジョウロを持った子どもたちの元気な声が響いていました。当時の道路は舗装されていなかったため、頭や顔が土ぼこりで汚れていても、そのまま学校に通う子どもたちも見られました。

町としても有名でした。西側の部分で唯一残っている土塁跡も整備され、「西総堀土塁公園」として一般に公開されました。また公園近くにある新井家の庭には湧水の池や、江戸時代に建てられた赤門(腕木門)もあり、三の丸地区には少ない当時の面影を残す情景があります。しかし赤門も傷みが激しく、いかにこの歴史的建造物を残すことが出来るか?が今後の課題として問われています。

土井尻町会長 栗田 幸一

中央地区の樹木⑧

「けやき」の名は「けやき木」が由来であり「けやき」には「目立つ、ひととき優れている」という意味があるそうです。檜は材料としての有用性ととも、その大きな姿の美しさも人々の心の拠り所となり、昔から尊ばれてきました。

私たちは日常この木を見ながら暮らしています。この大木は松本神社境内にも4本あり、前の道路には3本ありますがそのうち2本は道路の真ん中にあります。境内にある1本と道路に



松本神社前のケヤキ

ある1本がご神木となっております。この道路工事は周囲の環境に配慮したということで「優秀賞」という表彰を受けその碑を今も見ることが出来ます。

また、市の「水巡り井戸整備事業」で整備された神社の水場は、松本城と旧開智学校という二つの国宝の真ん中にあり、観光客の衣服の場になっています。なお、松本城内にも大小20本余りの檜の木が存在しています。(一部インターネット投稿文より引用) 箕輪 徹朗

中央地区防災部による 立川防災館 視察研修

防災について学びました☆

マイナス3度以下だった12月11日の朝7時、15名の参加者に乗せ出発。松本インターから高速に乗り快晴の空の下、立川に向け行く頃には富士見付近、左側にはつすらと雪化粧した八ヶ岳連峰を横に見ながら行くと、正面に真っ白に雪をかぶった、日本一の富士山

が見えてきました。本当にいつまでも素晴らしい山です。途中の双葉サーブスエリアで休憩、車を降りると日本晴れでした。右に甲斐駒を見ながら進みました。八王子インターで高速を降り「東京消防庁立川防災館」に到着。この防災館は東京霞ヶ関が機能不能になった時の為に建てられた施設だそうです。

最初に施設の方の話を聞き、いくつかの所に行って体験をしました。家にある上着や毛布で担架を作りました。水平に運ぶこと、前後の拍子手の踏み足は交互になるようにすることがポイントだそうです。また、煙で充滿している真っ暗な中を手探りだけで抜け出す体験もしました。さらに「庄巻」だつたのが、VR(ヴァーチャルリアリティ)で、スキーゴーグルの3倍位のゴーグルを顔に付けて防災体験をさせていただきました。

この後、調布の深大寺に向かい昼食、参拝をしました。土曜日で好天に恵まれ、境内の紅葉は始まったばかりで色づきはいいまいちでした。夕方帰路に着きました。ありがとうございました。

(O・M)



がれきを想定した体験

「公民館」元気プロジェクト

この度、全国公民館連合会と、明治安田生命保険相互会社が、地域コミュニティの持続的な発展をテーマに、地元「公民館」元気プロジェクトを共同で推進することが決まりました。

具体的には、明治安田生命の健康分野の知見等を活かした講座や講習会を、公民館で実施して下さるものです。

昨年の11月24日には、中央地区ふれあい会食会が開催され、明治安田生命のご協力をいただき、「人生100年時代!」くらしに役立つ睡眠と健康の知恵袋」と題し、ご講演をいただきました。

年齢による睡眠時間の変化、体内時計の特徴、人それぞれの睡眠タイプがある事を知り、より良い睡眠をとるための方法や自分に合ったよい睡眠を実践しようというものでした。

他にも健康づくり栄養講座、認知症予防講座など、皆さんの関心が高い講座もあるそうです。

今後

「公民館」元気プロジェクトを活用し、地域を元気に!!
(編集委員)



講座の様子